

## 福島12市町村の将来像に関する有識者検討会 アンケートについて

1. アンケートの目的

若い世代や子どもたちは、もう避難区域には戻らない、戻る気がないのではないかと、言う評価がしばしば聞かれるが、特に子どもたちの声を正確にヒアリングしている事例は、多くはない。

30～40年後の将来像を作成するに当たって、その将来の社会の中心となるはずの現在の子ども世代の考え方をよく把握した上で将来像を検討することが、実現性ある将来像を作る意味で非常に重要であると考えられる。

また、子ども世代より上の世代にとっても、将来像は関係ない話ではなく、30～40年後に向けて、自分の子ども、孫、弟や妹の世代に引き継ぐために担うべき役割を考えてもらう意味で、それらの世代の考えについても把握することが重要である。

このため、子どもを含めた各世代への将来像に関する考えを把握することを目的として、アンケートを実施する。

2. アンケートの実施方法

- ・時期: 27年1月発送 2月回収 3月取りまとめ
- ・対象: 12市町村に震災当時住んでいた住民 現在小学生4年生以上の者  
(子供向け: 小4～中3、大人向け: 高1以上) \* 住民の中からサンプル調査を実施

3. アンケート項目イメージ

子ども世代(小4～中3)には、何が自分自身が「ふるさと」と思うことのよりどころなのか、自分が大人になったときに、その「ふるさと」とどう関わりあうのか、といった点について質問をする。

大人世代(高校生以上)は、何が自分自身が「ふるさと」と感ずるよりどころなのかに加え、30～40年後の復興の主体(自分自身、あるいは自分の子ども、孫、弟や妹)がどのような立場で地域の復興に関してほしいか、そのために自分はどうすべきかといった点について質問をする。

(イメージ)

○子ども向け(小4～中3)

- ・「ふるさと」と思うきっかけとなるものは何か
- ・今後「ふるさと」がどうなるとよいか
- ・自分はどんな「まち」に住みたいか
- ・「ふるさと」と住みたい「まち」を比べてどうか
- ・将来の「ふるさと」に、自分はどう関わりたいか 等

○大人向け(高1以上)

- ・「ふるさと」と思うきっかけとなるものは何か
- ・今後「ふるさと」がどうなるとよいか
- ・30～40年後の復興の主体はどの世代か
- ・30～40年後の復興の主体の世代は「ふるさと」の復興にどう関わるのがよいか
- ・そのために自分は何をしたいか
- ・それらのためには何が必要か
- ・自分の子ども、孫、弟や妹の世代に、何を期待するか 等